

パラン：トリニダードのクリスマス音楽

Parang : Christmas songs of Trinidad (English)

Parang : Canciones de Navidad de Trinidad (Español)

富田 晃*

Akira TOMITA*

要 旨

英語圏カリブ海諸国の一つであるトリニダード・トバゴ共和国の主島トリニダード島では、3世紀にわたるスペイン植民地としての歴史と、近接するベネズエラとの絶え間ない交流のなかで18世紀から19世紀にかけて、スペイン語話者たちの民衆カトリシズムとして、パランと呼ばれるクリスマス歌曲が盛んに歌い、踊られた。20世紀に入るとパランの慣習は衰退するが、ベネズエラからの石油産業労働者の移入やイギリスからのトリニダード・トバゴ独立（1962）に伴った民俗文化復興運動などがあいまって、20世紀後半になると再びパランが脚光を浴びるようになった。こうした復興したパランは、広くトリニダード社会におけるクリスマス・パーティーのダンス音楽として広がるとともに、トリニダード・トバゴの文化を内外に誇るものとして学校教育やコンクールなどにも広がり、トリニダード・トバゴの国民文化として定着するに至った。

キーワード：トリニダード・トバゴ / 汎カリブ海スペイン語文化 / 民衆カトリシズム / 文化復興運動



汎カリブ海には、各地域の歴史や風土に根ざしたクリスマス音楽の伝統が息づいているところがある。プエルトリコやキューバの“アギナルド”、ベネズエラの“パランダ”などスペイン語圏の他、フランス語圏のマルチニーク島でもクリスマス・ソングは“シャンテ・ノエル”と呼ばれ親しまれている。また中米のカリブ海沿岸では異彩を放つ文化をもつガリフナ人が“パランダ”や“ウング・ウング”という独自の音楽とともに聖夜を踊り明かす。そして、カリブ海諸島の一角トリニダード島では、スペイン語で歌われる“パラン”がクリスマスを祝う季節行事として親しまれている。

カリブ海諸島の南東端にあり、コロンブス海峡を挟み南米大陸ベネズエラに近接するトリニダード・トバゴ共和国。人口約130万、面積約5000km²と、日本でいえば一つの県といった大きさだ。1962年にイギリスから独立したこの新興国家は、複雑な歴史経緯をもち、アフリカ、インド、イギリス、フランス、スペイン、中国、シリア、レバノン、ベネズエラなど世界各地から移り住んできた人たちによる多民族社会を形成して

* 弘前大学教育学部美術教育講座
Department of Art Education, Faculty of Education, Hirosaki University

いる。公用語は英語であるが、英語系クレオール、フランス語系クレオール、インド系の諸語、そしてスペイン語を話す人たちがいる。さまざまな文化が混在し攻めぎあいながら混淆するところだ。音楽面では、主にアフリカ系の人々によって発展してきたドラム缶から作られる楽器スティールパンやカリブソという歌謡音楽が世界的に有名だ。しかし、「混血者」とされるスペイン語話者のあいだでクリスマス音楽“パラン”が伝承されてきたことはあまり知られていない。

トリニダード・トバゴの主島トリニダードが、コロンブスにより「発見」されたのは1498年、以後この島は1797年にイギリスが覇権を握るまでの約300年間にわたり対岸の南米ベネズエラとともにスペイン植民地となる。しかし、大陸部に広大な領土をもつスペインはトリニダードへの本格的な植民活動はせず、少数の植民者が、島の先住民やアフリカから移入した黒人奴隷を使役しながら農園経営をする程度だった。

17世紀終わりにカプチン派のスペイン人宣教師がトリニダードにやってきた。スペイン人宣教師は島の先住民や黒人にカトリックを布教するとともに彼らを労働力としながら農園を切り開いた。一説によると、このときスペイン人宣教師が伝えたクリスマスの祭礼とその音楽がパランのルーツであるという。

確かにトリニダードのパランは、クリスマス祝う季節行事として親しまれ、そのレパートリーもキリスト生誕に因んだものが多い。そして、かつてスペイン人宣教師がこの島の先住民にカトリックを布教しながら開いたアリマやシパリアといった町では、今日、聖人祭の祝祭音楽や教会の典礼音楽としてパランが演奏されている。

“パラン”(parang または paran') という語は、“パランダ” parranda というスペイン語が、トリニダード化したものだ。スペイン語の“パランダ”には「どんちゃん騒ぎ」とか「家々を訪ね回る」といった意味があり、スペイン語圏各地の踊りをともなった祝宴をさす。そして、トリニダード島と近接する南米ベネズエラには、民衆カトリシズムに根ざしたクリスマス音楽パランダが伝承されている。

トリニダードのパランは、サンタ・クルス、カウラ、ロピノといった内陸のいくつかの町で19世紀のカカオ産業の繁栄とともに花開いた。こうしたパランの伝統を引き継ぐトリニダードの町とは、18世紀後半から19世紀にかけてベネズエラからやってきた人たちがカカオ農園の労働者として住み着いたところだ。彼らは、アフリカ人、南米大陸の先住民、そしてスペイン

人との間でトリニダードにやってくる以前から混血が進んだスペイン語話者だ。クリスマスの時期になると仲間が集まり近隣の家々を訪ね歩いて演奏し喜捨をつのるなど、出身地の習俗をトリニダードにもちこんだ。トリニダードのパランとベネズエラのパランダ、とくにオリエンテ地方のそれとでは楽器構成や楽曲、リズムなど音楽的にも共通するところが大きい。

こうして、トリニダードのパランは、トリニダード島の3世紀にわたるスペイン植民地としての歴史と、近接するベネズエラとの絶え間ない交流のなかで、スペイン音楽そのものとも、ベネズエラ音楽そのものともちがう、トリニダード独自のスペイン語音楽の伝統を形づくっていった。

トリニダードのパランは、11月終りからクリスマスに向けて盛んになり、1月6日の「東方の三博士の日」まで行われる。

パランを演じる面々は“パランダロス”と呼ばれ、一般に10人程度のグループを形成している。構成は、ボーカルのほか、ギター、クアトロ(小型4弦ギター)、マンドリン、バイオリン、ティプレ(4コース10弦ギター)といったヨーロッパから伝えられ新世界で改良が加えられていった弦楽器類のほか、先住民起源であるシャク・シャク(マラカス)、アフリカから伝えられたとみられるボックスベース(箱の上に弦を一本張った低音弦楽器)やマリンプラ(巨大な親指ピアノ)、そしてトクトク(拍子木)やグイロ(スクラッチャー)、カホン(木箱)などが加わる。また、トリニダードのパランによくみられるリズム特徴として、ベネズエラから伝えられた4分の3拍子と8分の6拍子がミックスされたクロスリズムがあげられる。

クリスマスが近づきパランの季節がやってくると、パランダロスは活動を始め、ユニフォームに身を包み家から家へと訪ね回る。この家々の訪問は同じ町の中のみならず、パランの伝統が息づく他の町へも出向いていく。パランダロスの訪問はしかるべき手順に沿って行われる。

訪問宅の前でパランダロスはまず“アギナルド”を歌う。アギナルドとは、スペイン語で「クリスマスの贈り物」を意味し、トリニダードのパランにおいては、パランダロスの訪問を知らせるものだ。

例えば：

扉を開けたもう。 少しずつ。 キリストの声を聞くために。

通りなさい。 通りなさい。 しかし、お花を踏んではならぬぞ。

その花を踏んで、色を落とすなかれ。

ただし、こうしたパランの楽曲とは、常に決まった音楽構成や歌詞を有しているわけではなく、ある程度決まったコード進行やメロディーの型、伝統的常套句などを織り交ぜながらその場の状況にあわせて即興的に構成していくものだ。

“アギナルド” が終わり、訪問宅の中に通されると、キリスト誕生を知らせる“アヌンシアシオン”を歌う。そして、訪問を受けた家では、キャッサバ・パン、ロースト・ポーク、チキン・ライス、トウモロコシ・ケーキ、ジンジャー・ビール、ラム酒といった伝統料理が振る舞われる。晚餐に一息つくとパランデロスは、バルス（ワルツ）、ポレロといったダンス音楽を演じ、人々は踊りに興じる。しばらくすると、別れを告げる“デスペディダ”を演じ次の家へと向かう。

例えば：

主人よ、さらば、またの日まで
机に紙をおきなさい この名を残すために

20世紀に入り、カカオ産業が衰退していくと、それに伴ってトリニダードのパラン音楽の慣習も消滅していくかのようであった。しかし、20世紀になってから新たにやってきたベネズエラからの石油産業労働者の移入や、イギリスからのトリニダード・トバゴ独立（1962）に伴った民俗文化復興運動とがあいまって、20世紀後半から、再びパランが脚光を浴びるようになってきた。こうして復興したパランは、かつての辺境のスペイン語話者による民衆カトリシズムに根ざした家々を訪ね回るといった音楽慣習から、広くトリニダード社会におけるクリスマス・パーティーのダンス音楽として、さらにはトリニダード・トバゴの文化を内外に誇るコンクールや学校教育の演目として広がった。

一方、独立による国家教育の浸透や中央集権化の結果、トリニダードにおけるスペイン語を話せる人口が

減り、それまでスペイン語で歌われてきたパランは、国語である英語で歌われるようになっていった。またアメリカ合衆国やイギリスの大衆音楽の影響などからボックスベースやマリンプラなどの素朴な民俗楽器は姿を消し、代わりにキーボードや電気ベースなどの楽器が使われるようになっていった。

さらに最近では、アフリカ系住民のダンス音楽ソカと融合したパラン・ソカや、アフリカ系のみならずインド系住民のダンス音楽チャトニーとも融合したチャト・カイ・パラン（チャトはチャトニー、カイはアフリカ系の歌謡音楽カイソの短縮形）などと、トリニダードにおける民族間の壁を越える混淆音楽も生まれてきている。こうして現在、パランは、クリスマスには欠かせない音楽として広くトリニダードの人々から親しまれ、トリニダード・トバゴの国民文化として定着している。

文献

CHAUHARJASINGH, Archibald S.

Lopinot In History, Columbus Publishers, 1982



「ララ・ブラザーズ」

トリニダード島に現在50以上あるというパラン・グループのなかでも、ララ・ブラザーズ・グループは、19世紀に花開いた古き良き時代のパランを今日に伝える。楽器は、写真中央がボックスベース。その左右がクアトロ、左がギター

In Trinidad there are about 50 Parang groups. Lara Brothers is one of most traditional groups playing 19 century Parang style. Music instruments of the picture, center: boxbass, right and left of center : cuatro, left wing : guitar

En Trinidad hay alrededor de 50 grupos de Parang. Hermanos de Lara es uno de los más tradicionales ejecutando estilo de siglo 19. Instrumentos de música de la imagen, en el centro: boxbass (contrabajo de una cuerda) y, derecha y izquierda del centro : cuatro, lado de izquierda : guitarra

(English)

Parang : Christmas songs of Trinidad

Abstract

In Trinidad, main island of the Republic of Trinidad and Tobago, one of the Caribbean countries of English speaking, in the 18-19 century Hispanic people sang and danced Parang music as Christmas carol of folk Catholicism. It was influenced as colony of Spain during 300 years and communication with Venezuela, neighborhood Spanish speaking country.

Entering of 20th century, Parang music seemed to be disappearing. But on the background of new immigration from Venezuela by oil industry and folk revival movement stimulated by the independence (1962), Trinidad's Parang was revived in the latter half of 20th century. This revived Parang is Christmas party dance music for every Trinidadian. Parang music came to be regarded as a subject for contests of education to express Trinidad and Tobago's cultural richness. Today Parang is an important part of national culture of Trinidad and Tobago.

Keywords

Trinidad and Tobago / Hispanic culture in the Caribbean basin / Folk Catholicism / Folk Revival Movement

In the Caribbean region, there are places where different traditions of Christmas songs have been formed in the history of each country. In Martinique Chant Noël, in Cuba and Puerto Rico Aguinaldo, in Venezuela Parranda, and Garifuna people at Central American Caribbean Coast sing and dance throughout the holy night with their own folk music, Parranda and Jung Jung. In Trinidad, the people celebrate Christmas with Parang music which is rooted in Hispanic heritage.

The Republic of Trinidad & Tobago is located at the southeastern end of the Caribbean islands. Adjoining with Venezuela on South American continent, it has a territory of about 5000 km² and an approximate population of 1,300,000. Cultural diversity is one of the prominent features of this country. The complicated history of this country has been formed by a multicultural society consisting of peoples from Africa, India, Britain, France, Spain, China, Syria, Lebanon, Venezuela etc. Official language is English, but Hindi, English and French Creole, and Spanish are also spoken. From the music scene of this country, Steelband and Calypso are world-famous, but Parang music, Spanish Christmas folk carol, is not so well known.

Trinidad, the main island of Trinidad & Tobago, was "discovered" in 1498 by Christopher Columbus, and during the following 300 years until 1797, when the British fleet conquered Trinidad, this island was under Spanish authority together with Venezuela. In this age, some Spanish colonists managed farms using black slaves and indigenous people of the island.

In the end of 17th century, Capuchin monks came from Catalan. These Spanish missionaries were devoted to propagate Christian faith to Trinidad's inhabitants, mainly indigenous people mixed with African blacks. Some scholars claim that Christian custom and music introduced by Capuchin missionaries in this age might be root of Trinidad's Parang.

The original term of Parang (also written: Paran') is the Spanish word Parranda. The word Parranda comes from "*para*" to stop, and in practice it means going from house to house. This word also means a spree. In Venezuela, neighborhood country of Trinidad, Parranda is a music genre related with Venezuelan folk Catholicism.

In 19th century, Trinidad received a lot of Venezuelan immigrants as cacao plantation laborers. They influenced to a great extent the Spanish language and customs by introducing Venezuelan folkways. During the Christmas season they gathered and organized music groups, visiting from house to house, singing and playing secular Christmas carols. Trinidad's Parang has common aspects with Venezuelan Parranda, especially the one in the Oriente region, such as instruments' organization and music tunes.

Thus, with the influence of incoming Hispanic cultures of different period Parang was formed as Trinidad's own music. This Hispanic legacy flourished in the 19th century. The principal centers of Parang are St. Joseph, Arima, Caura, Lopinot, Siparia, and St. Cruz where Spanish speaking peoples settled.

Parang is the typical Trinidad's Christmas music that can be heard from November until the 6th of January (Day of the

Three Kings). During the days the Parranderos, musicians of a Parang band, are visiting the houses of family, friends and neighbors in order to sing about the annunciation of the Birth of Jesus Christ. Also, exchange visits between the various villages take place by the Parranderos.

The music instruments for the Parang music are: European rooted instruments such as guitar, cuatro (small guitar with four strings), mandolin, violin, tiple (4 courses 10 strings guitar), Caribbean indigenous instruments such as shak-shak (maracas), African rooted instruments such as boxbass (one string bass instrument) and marimbula (big thumb-piano), also tock-tock (wood block) and guiro (scracher). A cross-rhythm of 3/4 and 6/8 is often used in Parang.

The three different types of Parang music are Aguinaldo, Anunciación and the Despedida. Aguinaldo is a song for asking permission to open the doors and enter a house.

For example:

***Pasen pasen, pero cuando pasen no pisen las flores
porque si las pisan se van los colores.
Enter, enter, but when entering do not step on the flowers,
because the colors will fade away.
Abranme la puerta, poquito a poquito
Como se la abrieron para escuchar a Cristo.
Open the door, little by little.
Like they open the door in order to listen to Jesus Christ.***

Once the Parranderos are inside the house they continue to play Anunciación, a song about the annunciation of the birth of Jesus Christ and other holy lyrics. During this celebration typical Christmas food and drinks, such as cassava bread, roast pork, chicken and rice (pelau), corn cake, coffee, and ginger beer, are served. Parranderos will play vals (waltz) and bolero for dancing.

Before leaving the house the parranderos will play special songs, Despedida, to say good-bye. For example:

***El dueño de la casa, será hasta la otra vez.
The owner of the house, till next time.
Póngame en la mesa, papel de escribir para firmar mi nombre antes de salir.
Put down on the table, paper to write in order to sign my name before I leave.***

Entering of 20th century, with the declining of the cacao industry, Parang music seemed to be disappearing. But on the background of new immigration from Venezuela by oil industry and folk revival movement stimulated by the independence (1962), Trinidad's Parang was revived in the latter half of 20th century. This revived Parang is not only Spanish speaking people's folk custom any longer, but also Christmas party dance music for every Trinidadian. Furthermore, Parang music came to be regarded as a subject for contests of education to express Trinidad & Tobago's cultural richness.

With the growing ethnic diversity in Trinidad, new fusion music styles appeared. Those are Parang-Soca, a blended music of Parang and Soca (dance music developed by Afro-Trinidadians), and Chut-Kai-Parang, a blended music of Chutney (dance music developed in East-Indian people's community), Kaiso (old style Calypso) and Parang. Today Parang is an important part of national culture of Trinidad and Tobago.

(Español)

Canciones de Navidad de Trinidad: Parang

Resumen

En Trinidad, isla principal de la República de Trinidad y Tobago, uno de los países del Caribe de habla inglés, en el siglo 18 y 19 gente que habla español cantó y bailó música Parang como villancicos de Navidad de catolicismo popular por la influencia de colonia española durante 300 años y la comunicación con Venezuela, país vecino de habla hispana.

Inicio del siglo 20, música de Parang estaba desapareciendo. Pero por la nueva inmigración procedente de Venezuela por la industria petrolera y movimiento de renacimiento popular estimulado por la independencia de Trinidad y Tobago (1962), Parang fue revivido en la segunda mitad del siglo 20. Este renovado Parang es una música de baile de Navidad para todas personas de Trinidad. Parang llegó a ser considerado como un tema para los concursos de educación para expresar riqueza cultural de Trinidad y Tobago. Hoy Parang es una parte importante de la cultura nacional de Trinidad y Tobago.

Palabras Claves

Trinidad y Tobago / Cultura Hispana en Caribe / Catolicismo Popular / Movimiento de Cultura Popular

En la región del Caribe, hay lugares donde las diferentes tradiciones de las Navidades se han formado las canciones de la historia de cada país. Chanto Noël en Martinica, Aguinaldo en Cuba y Puerto Rico, Parranda en Venezuela, y garífunas de Centroamérica en Costa Caribe cantan y bailan durante la noche santa con su propia música folklórica, Parranda y Jung Jung. En Trinidad y Tobago, la gente celebra Navidad con música de Parang que se basa en herencia hispana.

La República de Trinidad y Tobago se encuentra en el extremo sureste de las islas del Caribe. Junto a Venezuela en el continente sudamericano, cuenta con un territorio de aproximadamente 5,000km² y una población aproximada de 1,300,000. Diversidad cultural es uno de los rasgos más destacados de este país. Por la historia complicada de este país, ha sido formado por una sociedad multicultural que consta de las herencias de África, India, Gran Bretaña, Francia, España, China, Siria, Líbano, Venezuela etc. Lengua oficial es el inglés, pero se habla también una mezcla de inglés y francés, hindi y español. A la escena musical de este país, steelband y calypso son famosas en el mundo, pero Parang, villancico de Trinidad se canta en español, no es tan conocida.

Trinidad, la isla principal de Trinidad y Tobago, fue "descubierto" en 1498 por Cristóbal Colón, y durante los siguientes 300 años, hasta 1797, cuando la flota británica conquistó Trinidad, estaba gobernado por España junto con Venezuela. En esta época, algunos colonos españoles explotaba agrícolas trabajando con esclavos negros e indígenas de la isla.

En el final del siglo 17, los monjes capuchinos de catalán. Estos misioneros españoles se dedicaron a propagar fe cristiana a la gente de Trinidad, principalmente indígenas mezclados con los negros africanos. Algunos estudiosos afirman que costumbre cristiana y música introducida por misioneros capuchinos en esta época puede ser raíz de Parang de Trinidad.

El término original de Parang (también se escribe Parang') es una palabra española Parranda. La palabra Parranda proviene de "para" para detener, en la práctica significa que se van de casa en casa. Esta palabra también significa un derroche. En Venezuela, país vecino de Trinidad, Parranda es un género de música popular venezolana relacionado con el catolicismo.

En siglo 19, Trinidad recibió una gran cantidad de inmigrantes de Venezuela como los trabajadores de las plantaciones de cacao, introduciendo la lengua española y las costumbres venezolanas. Durante la temporada de Navidad reunieron y organizaron grupos de música, visitando a casa a casa, cantando y tocando villancicos secular. Parang de Trinidad tiene aspectos en común con Parranda Venezolana, y en particular a la de la región de Oriente, como, por ejemplo, los instrumentos de organización y canciones.

Por lo tanto, con la influencia de la cultura hispánica de los períodos diferentes, Parang se formó como una propia música de Trinidad. Este legado hispano floreció en el siglo 19. Los principales centros de Parang son San José, Arima, Caura, Lopinot, Siparia, y Santa Cruz, donde se asentaron los hispanohablantes.

Parang es un típico de música navideña de Trinidad que se puede escuchar desde noviembre hasta el 6 de enero (Día de los Tres Reyes). Durante los días en que los Parranderos, músicos de banda de Parang, visitan las casas de la familia, los amigos y vecinos para cantar sobre la anunciación del nacimiento del Cristo. Además, hacen visitas de intercambio entre las distintas pueblos de Parranderos.

Los instrumentos musicales de Parang son: instrumentos de origen europeo como guitarra, cuatro (pequeña guitarra de cuatro cuerdas), mandolina, violín, tiple (4 cursos 10 cuerdas guitarra), instrumentos de origen indígenas del caribe como shak-shak (maracas), instrumentos de origen africano como boxbass (contrabajo de una cuerda) y marimbula (gran pulgar-piano), también tock-tock (clave) y güiro. Una mezcla de ritmo de 3/4 y 6/8 se usa a menudo.

Hay tres diferentes tipos de música de Parang, Aguinaldo, Anunciación y Despedida. Aguinaldo es una canción para pedir permiso para abrir las puertas y entrar en una casa.

Por ejemplo:

**Pasen pasen, pero cuando pasen no pisen las flores
porque si las pisan se van los colores.
Abranme la puerta, poquito a poquito
Como se la abrieron para escuchar a Cristo.**

Una vez que los Parranderos están dentro de la casa, siguen desempeñando Anunciación, una canción acerca de la anunciación del nacimiento de Jesus Cristo y otras letras sagradas. Durante esta celebración típica de navidad, los alimentos y bebidas, tales como pan de yuca, asado de cerdo, arroz con pollo (pelau), pastel de maíz, café, giger-ale y cerveza, se sirven. Parranderos desempeñan vals y bolero con el baile.

Antes de salir de la casa los parranderos ejection canciones especiales, Despedida, para decir adiós.

Por ejemplo:

**El dueño de la casa, será hasta la otra vez.
Póngame en la mesa, papel de escribir
para firmar mi nombre antes de salir.**

En inicio del siglo 20, con el declive de la industria del cacao, Música de Parang estaba desapareciendo. Pero por el fondo de la nueva inmigración procedente de Venezuela para la industria petrolera y movimiento de renacimiento de cultura popular estimulado por la independencia (1962), Trinidad y Tobago, Parang fue revivido en la segunda mitad del siglo 20. Este renovado Parang no es sólo costumbre navideña de hispanohablantes, sino también es de toda la gente de Trinidad para recibir tiempo de Navidad. Además, música de Parang llegó a ser considerado como un tema de concursos y programa de educación para expresar orgullo de la república de Trinidad y Tobago.

Por la diversidad étnica de Trinidad, aparecieron nuevos estilos de música fusión con Parang. Estos son Parang-Soca, una mezcla de Parang y Soca (música de baile desarrollado por Afro-Trinidad), y Chut-Kai-Parang, una mezcla de Chutney (música de baile por comunidad de India). Kaiso (antiguo estilo de Calypso) y Parang. Hoy Parang es una parte importante de la cultura nacional de Trinidad y Tobago.

(2014. 8. 4 受理)